

長宝寺跡



交野郡衙跡出土軒丸瓦

長宝寺跡出土の古瓦

長宝寺跡の調査概要 長宝寺跡における発掘調査は、昭和50・51・52年度に本市教育委員会において「郡津郡衙遺跡範囲確認調査」として実施しています。調査は、昭和30年代に白鳳期（7世紀）の軒丸瓦が採取された郡津神社の境内及び神社の北側に隣接する児童公園と単弁八葉蓮華文軒丸瓦（2）を発見した郡津神社の西約200mの交野市立郡津小学校前排水管理設工事現場付近の3か所実施しています。

昭和50年度の調査では、社殿の北側において南北方向の溝を二条（A溝・B溝）を検出し、蓮華文軒丸瓦、巴文軒丸瓦等を出土しています。また、社殿の西側でもB溝の続きを検出し、多数の瓦片等が出土しています。

昭和51年度の調査では、地形が北から南に向かって緩やかに傾斜するのを確認し、多数の瓦片が出土しています。また、「社殿の東側では新たな溝を確認し、白鳳期の蓮華文軒丸瓦片をはじめ、奈良期（8世紀）から中世に至る瓦片が多数出土した」と報告しています。

昭和52年度の調査では、かつて単弁八葉軒丸瓦（2）が採取された郡津神社の西約200m付近の調査を実施しています。報告書によれば、「四条の溝と中世に属する遺物が若干出土した」とされていますが、古代の瓦や土器は発見されていません。

これらの調査によって、寺院跡を明確に示す遺構は検出されなかったものの、郡津神社の境内より白鳳期から中世に至る多量の瓦を出土したことをもとに、郡津神社を中心に南北約90m、東西約75mの範囲を長宝寺跡として「交野市文化財分布地図」に掲載しています。

古代の瓦 この3か年の調査で出土した瓦の一部は、先の調査概要によって報告されていますが、大半の瓦は未整理であったことから、今回は古代に属する軒瓦と平瓦を抽出して基礎的な遺物整理を実施しました。

1は単弁八葉蓮華文軒丸瓦で、中房は欠損して不明、弁の外側に界線が巡り、弁間には楔形を配し、焼成は甘く、表面は淡灰白色で、瓦当全体が風化しています。4は1と同じ文様ですが、焼成は良く須恵質です。

2は、弁上に明瞭な稜線を有する単弁八葉蓮華文軒丸瓦です。中房には1+4の蓮子を配し、弁間には楔形と珠文を交互に配しています。外縁の圏線は無く、焼成は良く須恵質で、全体にシャープです。2の出土地点は、郡津神社西方約500mと報告されていますが、奥野平次



氏が残したメモによれば西方約200mです。5～8は2と同じ文様で、6～8は同一個体です。3は、単弁蓮華文軒丸瓦で、弁端は尖り気味で、花卉は扁平で端部に向かってやや反っている感じがします。弁間には何も配さず、外縁上に一条の凹線が見られます。焼成は甘く軟質で、淡橙色を呈しています。

9・10・11・12は、忍冬唐草文軒丸瓦です。9には、中房が認められるものの珠文は見られません。外縁の内側に線鋸歯文が見られます。この瓦は、瓦当の表面に文様体を薄く貼り付けたような作り方をしています。11・12はその薄い文様体の剥がれた部分と思われます。10の文様構成は9と同じですが、9に比べるとシャープさにかけて、瓦当面の作り方も異なっています。

13は、忍冬唐草文軒平瓦で、唐草文の構成や文様のタッチが、9・11・12の文様とよく似ています。

14～19は、凸面に縄目叩き痕が残る平瓦です。14は縄目叩きの後、部分的に刷り消しています。16は叩き目が交差しています。焼成は14～16が良く須恵質で、17の焼成は甘く色調も淡白灰色を呈しています。14・17は桶巻き作りです。凹面は全て布目痕が残ります。

20～31は、凸面に格子叩き痕が残る平瓦です。20～23、25、28は斜格子です。24、26、27、29、30は正格子です。焼成は、29、30はやや甘く、軟質で、色調も淡橙色です。20～28の焼成は良く須恵質です。31の凸面は、粗い叩き目が方向を変えて重なっているようにも見えますが、全体の作りも粗雑な感じがします。叩き目の下には糸切り痕が残り、焼成は良いが、焼け歪みが見られます。他の格子叩き痕が残る平瓦とは異質です。これらの平瓦の凹面には布目痕が残ります。

長宝寺跡出土の軒瓦 古代に属すると思われる軒瓦を分類すると、3は素弁ともいえる瓦です。出土瓦の中で最も古い瓦と思われます。風化が著しく不明な点も多いですが、単弁蓮華文軒丸瓦（1・4）は弁間に楔形を配し、九頭神魔寺（枚方）に類例があります。単弁蓮華文軒丸瓦（2・5～8）は、弁間に楔形と珠文を交互に配するもので、先の瓦と類似している。2は、長宝寺跡から離れた地点で発見されていますが、同じ文様の5～8が長宝寺跡から出土しており、長宝寺に属していた瓦と考えられます。9～11と12は、他に類例が無く、長宝寺跡のオリジナルの文様と言えます。軒平・丸瓦が同文でセットになっていることも特徴と言えます。

いずれにしろ、軒瓦の出土量が極めて少なく、今後の発掘調査に大きな期待がかかります。

参考資料
郡津郡衙遺跡範囲確認・調査概要 1976～78・3 交野市教育委員会
令和5年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要 2024.3 交野市教育委員会